授業科目	医動物学	担当教員	オリベラ　恵		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	ヒトに寄生する原虫類や蠕虫類、伝染病などを媒介してヒトに害を与える動物について学ぶ。				
到達目標	寄生虫や衛生動物の形態や生活史・感染経路などを説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「医動物学」(医歯薬出版) ・プリント				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 20%の評価点とする。
レポート	0	
小テスト	20	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。④課題を通して自己学習を身につけること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	総論	医動物学の講義について
2	蠕虫学①	線虫類
3	蠕虫学②	吸虫類
4	蠕虫学③	条虫類
5	原生動物学①	腸管内寄生アメーバー類
6	原生動物学②	血液・組織寄生原虫類
7	衛生動物学	ダニ類、昆虫類
8	まとめ	総括

授業科目	医動物学	担当教員 実務経験	オリベラ恵 有：■　　無：□	病院検査部免疫業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	コンピュータ演習	担当教員	木田　順士		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	オフィスソフトを使用して情報の編集、加工などを学ぶ。				
到達目標	表計算ソフト（エクセル）の操作ができる。文書作成ソフト（ワード）の操作ができる。プレゼンテーションソフト（パワーポイント）の操作ができる。				
テキスト・参考図書等	・プリント				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 100%の評価点とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	①実習形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。④提出物の期限を守ること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	エクセル①	基本操作、表の作成
2	エクセル②	データの分析、印刷
3	エクセル③	関数の使用方法
4	エクセル④	図形の挿入、グラフの作成
5	ワード①	基本操作、文章の作成
6	ワード②	図形の挿入、印刷
7	パワーポイント①	基本操作、スライドの作成
8	パワーポイント②	アニメーションの作成、スライド実行

授業科目	コンピュータ演習	担当教員 実務経験	木田順士 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生物学	担当教員	松行　正人		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	生命の基本単位である細胞の構造・機能及び受精から形態形成までを学ぶ。				
到達目標	生命の特質を説明できる。細胞内小器官の構造、機能を説明できる。遺伝、発生過程を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「生物学」第 3 版（医歯薬出版） ・プリントおよび演習プリント ・授業で取り上げた国家試験問題				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 ②プリント提出、および授業に取り組む姿勢などを平常点として科目成績全体の 20%の評価点とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	20	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式および演習形式の授業、予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ②教科書、および授業ファイル、演習ファイルは毎時間使用するので忘れずに持参すること。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	生命の単位①	ウイルス、原核細胞、真核細胞（生命誕生）、細胞内小器官①
2	生命の単位②	細胞内小器官②
3	ヒトの体の構成と機能①	内部環境と調節（血液、血管系）
4	ヒトの体の構成と機能②	内部環境と調節（ヒトの神経系、神経の基本構造）
5	ヒトの体の構成と機能③	内部環境と調節（自律神経と内分泌系の特徴）
6	ヒトの体の構成と機能④	内部環境と調節（ホルモンによる恒常性の調節）
7	ヒトの体の構成と機能⑤	内部環境と調節（生体防御、細胞性免疫と体液性免疫）
8	生命活動とエネルギー	代謝、酵素、呼吸
9	細胞の増殖、生殖細胞の形成①	細胞周期、体細胞分裂、減数分裂
10	細胞の増殖、生殖細胞の形成②	配偶子形成、受精
11	遺伝①	遺伝情報と形質の発現（遺伝子の本体、ＤＮＡとＲＮＡ）
12	遺伝②	遺伝情報と形質の発現（転写、翻訳）
13	遺伝③	ＡＢＯ血液型、性染色体に伴う遺伝
14	受精、発生、分化①	生殖、受精、発生、分化のしくみ
15	受精、発生、分化②	各胚葉からの器官分化

授業科目	生物学	担当教員 実務経験	松行 正人 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	数学	担当教員	菅原　和良		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	臨床検査技師の専門科目を学ぶ際に、数学の知識と計算力が求められる。専門科目に備えて、基本的な数学力を高める。				
到達目標	測定値の処理方法を説明できる。比例関係の計算法ができる。指数法則・対数法則について活用できる。				
テキスト・参考図書等	・プリントを配付 ・高校で使用した数学の教科書や参考書があれば、持参				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 70%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 15%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体 15%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	15	
	提出物	0	
	その他	15	

履修上の留意事項	①板書やプリントを中心に授業を進める。 ②授業中および課題として計算演習を行う。 ③学習項目ごとに小テストを実施する。 入学以前の数学の履修状況には個人差がある。これまであまり数学を学習してこなかった学生は、分からないことがあれば積極的に質問し、よく復習すること。小テストの点数が合格点に満たない場合は、課題や再テストに取り組むことが単位取得の条件である。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	数と式①	数の計算
	2	数と式②	数の計算
	3	数と式③	数の計算
	4	数と式④	数の計算
	5	数と式⑤	数の計算
	6	有効数字	有効数字の計算
	7	比例関係	比例関係の演習
	8	データの分析	データの分析、統計学の基礎
	9	指数①	指数法則、累乗根の計算
	10	指数②	指数関数
	11	指数③	指数関数の性質、大小関係
	12	指数④	対数方程式、指数不等式
	13	対数①	対数の性質、対数計算
	14	対数②	対数関数とその性質、対数方程式、対数不等式
	15	対数③	常用対数の応用、　対数計算の演習

授業科目	数学	担当教員 実務経験	菅原和良 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床生理検査学Ⅰ	担当教員	江畑　京子		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	心臓の構造と機能について学び、心電図・心音図・脈波について学ぶ。				
到達目標	心臓の機能と構造に加え、様々な心電図測定の原理および検査方法を理解し、正常および異常心電図の波形を判別できる。心音図と脈管検査について検査方法を理解し、心電図との関連も併せて説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「生理機能検査学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	90	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 90%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	10	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書や板書・プリントを中心に講義形式の授業を実施する。 ②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	心電図①	心電図の歴史、心臓の構造と機能　（江畑）
	2	心電図②	心電図波形の発現機構　（江畑）
	3	心電図③	心電図波形の成り立ちと心電図の計測（江畑）
	4	心電図④	心電図計測の実際・波形の表現方法(江畑)
	5	心電図⑤	心電図の誘導法と誘導の意味　（江畑）
	6	心電図⑥	正常心電図(江畑)
	7	心電図⑦	心電計の原理と操作方法　（江畑）
	8	心電図⑧	異常心電図波形の特徴と臨床的意義①　（早坂）
	9	心電図⑨	異常心電図波形の特徴と臨床的意義②　（早坂）
	10	心電図⑩	異常心電図波形の特徴と臨床的意義③　（早坂）
	11	心電図⑪	異常心電図波形の特徴と臨床的意義④　（早坂）
	12	心電図⑫	虚血性心疾患の心電図　（早坂）
	13	心電図⑬	運動負荷心電図、ホルター心電図、特殊な心電図 (早坂)
	14	心音図	心音図について　（早坂）
	15	脈管検査	脈管検査の原理と検査法　（早坂）

授業科目	臨床生理検査学Ⅰ	担当教員 実務経験	早坂宏之 有：■　　無：□	大学病院検査部生理検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床検査医学総論演習	担当教員	藤田　昌宏		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	さまざまな疾患の病態を学ぶ。検査に必要な病理学総論・各論を学ぶ。				
到達目標	ヒトの生理学的現象を病的変貌から追求し病気の本態を説明できる。正しい医学用語と知識を述べることができる。疾患を論理的に理解し説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「病理学／病理検査学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 ②レポートの得点を科目成績全体 10%の評価点とする。 ③小テストの得点を科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	10	
	その他	10	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書等による演習形式で授業を行う。 ②各自必要に応じた教科書、資料などを準備すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	循環器系	心臓、脈管系
	2	呼吸器系	上気道、気管支・肺、胸膜および縦隔
	3	消化管疾患の検査①	口腔、歯牙と唾液腺、食道、胃
	4	消化管疾患の検査②	小腸・大腸、肝臓、胆嚢、胆道系、膵臓、腹膜
	5	内分泌系①	内分泌腺、視床下部と下垂体後葉、下垂体前葉、甲状腺
	6	内分泌系②	副甲状腺（上皮小体）、副腎皮質、副腎髄質と傍神経節、膵臓ランゲルハンス島
	7	泌尿器系	腎、下部尿路
	8	生殖器および乳腺	男性生殖器、女性生殖器、乳腺
	9	造血臓器系	骨髄、リンパ節、脾臓
	10	神経系	中枢神経系、末梢神経系
	11	運動器系	骨格筋、骨、関節、軟部腫瘍
	12	感覚器系	視覚器の腫瘍、聴器の腫瘍
	13	皮膚系	発疹の分類、皮膚病理組織用語、湿疹と皮膚炎、中毒疹、薬疹、角化症等
	14	膠原病（自己免疫疾患）	関節リウマチ、SLE、全身性硬化症、多発性筋炎と皮膚筋炎、リウマチ熱等
	15	まとめ	まとめ

授業科目	臨床検査医学総論演習	担当教員 実務経験	藤田昌宏 有：■　　無：□	検査センター病理検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床検査医学総論	担当教員	星　直樹		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	実際の検査について学び、各分野への理解を育む。またわからないことを自分で調べ、「勉強の方法」を学び、身に付ける。				
到達目標	各分野で、知識として必要な事項を述べることができる。各検査と疾患を関連付けることができる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「生理機能検査学」（医歯薬出版）　・臨床検査学講座「病理学/病理検査学」（医歯薬出版） ・臨床検査学講座「臨床微生物学」（医歯薬出版）　・臨床検査学講座「臨床化学検査学」（医歯薬出版） ・臨床検査学講座「血液検査学」（医歯薬出版）　・臨床検査学講座「医動物学」（医歯薬出版） ・臨床検査学講座　「臨床病態学/臨床検査医学総論」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 10%の評価点とする。 ③提出物は課題を渡す。この点数を科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	10	
	提出物	10	
	その他	0	

履修上の留意事項	各自、予習復習を行うこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	医学概論	病気について、救急医療について
	2	循環器疾患の検査	心臓疾患の検査について
	3	呼吸器疾患の検査	肺疾患の検査について
	4	消化器疾患・肝・胆道・膵疾患の検査	肝炎、悪性腫瘍等
	5	感染症の検査	各種感染症の検査について
	6	血液疾患の検査	貧血、白血病等の検査について
	7	内分泌疾患の検査	内分泌の検査について
	8	腎・尿路・男性性殖器・女性生殖器疾患の検査	泌尿器系婦人科等の検査について
	9	神経・運動器疾患の検査	脳、筋、神経等の検査について
	10	アレルギー・膠原病・免疫不全症の検査	アレルギー等の検査について
	11	代謝・栄養障害の検査	各種代謝異常症の検査
	12	感覚器・中毒の検査	眼・耳に関する検査、中毒に対する検査について
	13	染色体・遺伝子異常の検査	染色体異常、遺伝子異常の検査について
	14	皮膚・乳腺疾患の検査	皮膚科系、乳腺疾患の検査について
	15	検査診断学総論	基準範囲、臨床検査性能評価、チーム医療、タスクシフトについて

授業科目	臨床検査医学総論	担当教員 実務経験	星直樹 有：■　　無：□	病院検査部一般検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	基礎生理学	担当教員	一瀬　信敏		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	人体各部位の正常な状態における機能とそれを支える機序、それらの人体における役割を学ぶ。				
到達目標	人体各部位の機能と役割を理解し、臨床検査技師に必要な生理学全般についての基本事項を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「生理学」（医歯薬出版） ・必要に応じてプリント				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 70%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 20%の評価点とする。 ③授業の参加態度などを平常点として科目成績全体 10%の評価点とする。
レポート	0	
小テスト	20	
提出物	0	
その他	10	

履修上の留意事項

①スライドと板書を使用して講義を行う。②スライドのレジュメは縮小印刷して、毎回配付する。③講義の冒頭で前回講義の内容に関する小テストを実施する。　講義で人体各部の機能と仕組みを理解した上で、その内容を学習すること。そのために予習と復習を行って知識を定着させること。講義を通じて人の「生きるしくみ」の理解につとめ、疑問点があればどしどし質問すること。質問は歓迎する。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	神経の生理①	興奮（活動電位）の発生機序
2	神経の生理②	神経細胞の機能
3	神経の生理③	神経系の機能
4	感覚	感覚の特性と機能
5	筋の生理①	骨格筋収縮の機能と調節
6	筋の生理②	筋収縮のエネルギーと心筋・平滑筋の特徴
7	循環①	心拍動の機序と心電図
8	循環②	循環の調節と血管の機能
9	呼吸	呼吸機能と調節
10	消化と吸収	消化管の機能と栄養の吸収
11	代謝と体温調節	代謝の基礎と体温調節
12	尿の生成と排出①	腎の構造と機能
13	尿の生成と排出②	体液の恒常性維持の仕組み
14	内分泌	ホルモンの調節と作用
15	生殖	生殖の仕組み

授業科目	基礎生理学	担当教員 実務経験	一瀬信敏 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医療安全管理学演習 B	担当教員	星　直樹		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	検体採取の意義や方法を学ぶ。				
到達目標	医療安全について理解を深め、患者への安全な検体採取対応を行うことができる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「医療安全管理学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 ②プリント提出などを平常点として科目成績全体 20%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②リスクマネージメント、感染管理は職場では重要なポイント。十分に学習すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	検体採取①	採血の手順
	2	検体採取②	シミュレーターを用いての採血
	3	検体採取③	シミュレーターを用いての採血
	4	検体採取④	シミュレーターを用いての採血
	5	検体採取⑤	シミュレーターを用いての鼻腔・咽頭からの検体採取
	6	検体採取⑥	シミュレーターを用いての口腔からの検体採取
	7	検体採取⑦	シミュレーターを用いての皮膚からの検体採取
	8	検体採取⑧	シミュレーターを用いての肛門からの検体採取

授業科目	医療安全管理学演習 B	担当教員 実務経験	星直樹 有：■　　無：□	病院検査部一般検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="2">医療情報管理学</td><td>担当教員</td><td colspan="3">中島　克典</td></tr>
<tr><td>対象年次・学期</td><td colspan="2">1 年・前期</td><td>必修・選択区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td></td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="2"></td><td>授業回数</td><td>8 回</td><td>時間数</td><td>16 時間</td></tr>
<tr><td>授業目的</td><td colspan="6">①医療現場で利用されている情報管理システムついて学ぶ。
②現場で生成された医療情報の利活用とヘルスリテラシーについて学ぶ。
③医療情報・個人情報の保護について学ぶ。
④情報の選択方法と伝達・確認、コミュニケーションについて学ぶ。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">①医療情報システムにおける基礎的な業務知識を説明できる。
②電子カルテの利点・課題や検査情報管理システムを具体的に説明できる。
③個人情報保護に配慮した医療情報の利活用について説明できる。
④よりよい情報の選択と働きかけ、コミュニケーションの方法を考えることができる。</td></tr>
<tr><td>テキスト・
参考図書等</td><td colspan="6">これからのヘルスリテラシー（講談社）
・臨床検査学講座「情報科学」(医歯薬出版)
・その他必要に応じてプリント</td></tr>
<tr><td rowspan="6">評価方法・
評価基準</td><td>評価方法</td><td>評価割合(%)</td><td colspan="4">評価基準</td></tr>
<tr><td>試験</td><td>40</td><td colspan="4" rowspan="5">①　最高点を 100 点換算した試験得点を科目成績全体の 40%とする。
②　レポート（２題）の点数を科目成績全体の 30%とする。
③　小テスト、提出物、その他（講義への参加姿勢）をそれぞれ科目成績全体の 10%とする。
※　レポート・提出物ともにレポート等作成の基本である事実の把握と分析、これに対する意見、考察を評価する。</td></tr>
<tr><td>レポート</td><td>30</td></tr>
<tr><td>小テスト</td><td>10</td></tr>
<tr><td>提出物</td><td>10</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>10</td></tr>
<tr><td>履修上の
留意事項</td><td colspan="6">①テキストに準拠して、原則、パワーポイントを用いた講義を行う。(講義資料は classroom に掲載)
②医療システム運用の理解には病院等の業務、診療の流れなどの把握が必要。特に医療技術、情報活用に関する用語の予習・復習を行うこと。
③参考資料を配付して医療情報の活用に関する社会的課題、問題点の把握のためレポート作成（２題）を行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">履修主題・
履修内容</td><td>回</td><td colspan="2">履修主題</td><td colspan="3">履修内容</td></tr>
<tr><td>1</td><td colspan="2">医療情報管理について</td><td colspan="3">医療とは、情報とは、管理するとはなにか、医療情報の定義</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">医療情報と個人情報保護</td><td colspan="3">プライバシーと個人情報保護、データ保護、マイナンバー、改正個人情報保護法への対応</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="2">診療記録の電子化</td><td colspan="3">電子保存三原則、電子カルテ等採用の意義と課題等</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="2">医療情報の活用と社会的格差をどのように考えるか</td><td colspan="3">グループ演習：グループ構成員と課題解決に向けての合意形成への取り組み方について学ぶ</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="2">医療と情報の選択</td><td colspan="3">医療情報の選択とヘルスリテラシー、コミュニケーションの機能</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="2">医療情報と意思決定</td><td colspan="3">医療情報とバイアス、健康を決める力、</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="2">医療情報のセキュリティ対策</td><td colspan="3">医療情報管理の現状と情報システムの役割と意義、情報セキュリティの重要性を確認する。</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="2">医療情報の活用と個人情報保護を両立できるか</td><td colspan="3">グループ演習：グループ構成員との課題解決に向けての合意形成への取り組み方について学ぶ</td></tr>
</table>

授業科目	医療情報管理学	担当教員 実務経験	中島克典 有：□　　無：■	病院医事業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	基礎生化学演習	担当教員	福士　勝		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	糖・脂質・蛋白質・核酸の消化・吸収と生体内の代謝（合成・分解反応）とそれぞれの物質の代謝の相互作用について学ぶ。				
到達目標	糖・脂質・蛋白質・核酸の消化・吸収と代謝（合成・分解反応）が説明できること。物質の代謝の相互作用について説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「生化学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 70%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 10%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体 20%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	10	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に演習形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。④提出物の提出期限は守ること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	代謝の概要	生体物質の代謝と相互作用と調節
	2	糖質の代謝①	消化・吸、グリコーゲンの合成と分解
	3	糖質の代謝②	解糖系と糖新生系、ペントースサイクル
	4	糖質の代謝③	クエン酸サイクルと ATP 合成
	5	脂質の代謝①	脂質の消化・吸収、脂肪酸の酸化分解と合成
	6	脂質の代謝②	コレステロールの代謝、リポ蛋白の代謝、中性脂肪の合、・リン脂質の合成・分解
	7	アミノ酸とタンパク質の代謝①	タンパク質の消化とアミノ酸の吸収、アミノ酸の分解（脱アミノ反応・脱炭酸反応）
	8	アミノ酸とタンパク質の代謝②	アミノ酸の分解（芳香族アミノ酸代謝・メチオニン代謝）
	9	アミノ酸とタンパク質の代謝③	尿素サイクルとアンモニアの処理、クレアチンとクレアチニン合成、アミノ酸の合成
	10	ヌクレオチドと核酸の代謝	核酸の消化・吸収、ヌクレオチドの合成・分解、ヌクレオチド誘導体の機能
	11	代謝調節と代謝統合	合成と分解の切り替え・代謝の臓器間の関係・無機質代謝・ヘムの代謝
	12	細胞制御と細胞周期①	細胞の機能制御と情報伝達、ホルモンの分類・作用機序
	13	細胞制御と細胞周期②	細胞内のシグナル伝達因子と情報伝達経路、細胞増殖の制御
	14	遺伝子の生化学	遺伝子の複製と修復・遺伝情報の発現・遺伝子解析・遺伝病
	15	生化学演習のまとめ	小テスト　まとめ

授業科目	基礎生化学演習	担当教員 実務経験	福士勝 有：■　　無：□	検査センター生化学検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	保健医療福祉概論	担当教員	石岡　聡子		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	医学の歴史、社会保障制度、保健・医療・福祉制度の概要を学ぶ。医の倫理と医療人としての心構えを学ぶ。				
到達目標	医学の歴史と医の倫理を説明できる。日本の社会保障制度、保健・医療・福祉制度を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「保健医療福祉概論」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 70%の評価点とする。 ②提出物の点数を科目成績全体 10%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体 20%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	10	
	その他	20	

履修上の留意事項	
	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	医学の歴史①	医学の起源～中世の医学
	2	医学の歴史②	近世の医学～現代、日本の医学史
	3	病院の各部門の役割①	各部門の役割と使命
	4	病院の各部門の役割②	臨床検査技師が行える生理学的検査
	5	わが国の医療制度	医療体系、老人の医療と福祉
	6	医療提供体制～医療保険	医療提供体制、医療法、医療保険制度
	7	社会保障費～医の倫理	社会保障費、医療従事者の心構えなど
	8	総まとめ	総まとめ

授業科目	保健医療福祉概論	担当教員 実務経験	石岡聡子 有：■　　無：□	病院検査部血液業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	基礎病理学	担当教員	藤田　昌宏		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	さまざまな疾患の病態を学ぶ。検査に必要な病理学総論・各論を学ぶ。				
到達目標	ヒトの生理学的現象を病的変貌から追求し病気の本態を説明できる。 正しい医学用語について説明できる。 疾患を論理的に理解し、説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「病理学／病理検査学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 (病理分野を科目全体の 70%、細胞診分野を科目全体 30%の評価点とする。) ②レポートの得点を科目成績全体 10%の評価点とする。 ③小テストの得点を科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	10	
	小テスト	10	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②解剖学をしっかり復習し、関連付けて病理学、臨床検査医学総論演習につなげること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	病理学とは何か	意義、中身、疾病の成立、病理解剖の役割－死の解明、病理学における方法　（藤田）
	2	染色体、遺伝子、発生の異常	染色体・遺伝子の異常、染色体異常症、先天性形態異常（奇形） （藤田）
	3	細胞障害とその修復機構①	組織細胞傷害をきたす因子と傷害機序、細胞傷害の形態像、壊死、アポトーシス（藤田）
	4	細胞障害とその修復機構②	肥大、過形成、萎縮、化生、再生、創傷の治癒と肉芽組織（藤田）
	5	物質代謝異常①	糖質代謝異常、脂質代謝異常（藤田）
	6	物質代謝異常②	蛋白質・アミノ酸代謝異常、生体色素代謝異常（藤田）
	7	物質代謝異常③	無機物代謝異常（藤田）
	8	循環障害①	局所の循環障害（藤田）
	9	循環障害②	全身の循環障害（藤田）
	10	炎症	炎症の形態的経過、炎症性細胞、炎症のケミカルメディエータ（藤田）
	11	細胞診①	細胞診　総論(坂爪)
	12	細胞診②	婦人科　正常の細胞像～炎症像（坂爪）
	13	細胞診③	婦人科　異形成～腫瘍細胞像（坂爪）
	14	細胞診　④	呼吸器　正常～腫瘍までの細胞像（坂爪）
	15	細胞診　⑤	細胞診　まとめ(婦人科・呼吸器)（坂爪）

授業科目	基礎病理学	担当教員 実務経験	坂爪恵子 有：■　　無：□	総合病院、検査センターにて病理検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	輸血・移植検査学Ⅰ	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	輸血・移植検査の基礎を学ぶ。赤血球・HLA の検査原理を学ぶ。輸血にかかわる検査を学ぶ。				
到達目標	輸血が移植であることを理解し、検査方法と副作用について説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「免疫検査学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 70%の評価点とする。 ②小テストの成績を科目成績全体 20%の評価点とする。 ③提出物の成績を科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	10	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②後期に行う実習に向けて輸血・移植検査を理解すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	輸血療法について①	輸血療法の適応範囲、血液製剤の種類について学ぶ。
	2	輸血療法について②	輸血療法の適応範囲、血液製剤の種類について学ぶ。
	3	血液型について①	ABO、Rh、その他の赤血球型について学ぶ。
	4	血液型について②	ABO、Rh、その他の赤血球型について学ぶ。
	5	輸血に必要な検査①	ABO、Rh 血液型検査について学ぶ。
	6	輸血に必要な検査②	不規則抗体検査について学ぶ。
	7	輸血に必要な検査③	交差適合検査について学ぶ。
	8	輸血に必要な検査④	その他の輸血検査について学ぶ。

授業科目	輸血・移植検査学Ⅰ	担当教員 実務経験	髙橋智哉 有：■　　無：□	病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	基礎免疫学	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	免疫に関与する因子・細胞について基本的な知識を学ぶ。				
到達目標	免疫学で使用する専門用語を説明できる。検査法の原理を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「免疫検査学」（医歯薬出版） ・必要に応じてプリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 70%の評価点とする。 ②小テストの成績を科目成績全体 20%の評価点とする。 ③提出物の成績を科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	10	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	免疫系の構成要素	概念：免疫担当細胞　リンパ球　顆粒球、骨髄胸腺　末梢リンパ組織
	2	自然免疫	病原体認識の特徴　要素、皮膚粘膜　貪食細胞、NK 細胞　補体系
	3	獲得免疫	抗原提示細胞、MHC 分子、抗原プロセシング
	4	抗原の認識	B 細胞の抗原認識　T 細胞の抗原受容体
	5	細胞性免疫①	T 細胞活性化　CD4 細胞　CD8 細胞
	6	細胞性免疫②	感染におけるメカニズム　免疫反応の終息
	7	液性免疫①	B 細胞刺激　シグナル伝達　B／T 細胞相互作用
	8	液性免疫②	抗体親和性　抗体の機能　補体の機能
	9	能動免疫と受動免疫	ワクチンと免疫グロブリン療法
	10	免疫寛容	中枢性寛容　末梢性 T／B 細胞寛容
	11	疾患と免疫検査①	感染症：細菌　ウイルス　真菌　寄生虫
	12	疾患と免疫検査②	腫瘍性疾患：腫瘍マーカー　胎児性抗原
	13	疾患と免疫検査③	アレルギー：Coombs 分類 I　II　III　IV型
	14	疾患と免疫検査④	自己免疫疾患：橋本病　バセドウ病　溶血性貧血　膠原病
	15	疾患と免疫検査⑤	免疫不全症：抗体産生の異常 T 細胞の障害　食細胞の障害

授業科目	基礎免疫学	担当教員 実務経験	髙橋智哉 有：■　　無：□	病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床生理検査学実習ＩA	担当教員	江畑　京子		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	臨床生理学の機器の原理、操作方法、判読法を学ぶ。学生同士で検者と被検者になり、患者心理の理解および接遇を学ぶ。				
到達目標	心電図検査の準備、説明、測定と心電図波形の判読ができる。眼底検査、平衡機能検査、聴覚を理解し、測定、説明、評価ができる。緊急対応を理解する。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「生理機能検査学」　（医歯薬出版） ・スライド ・プリント ・心電計				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	実技テストや試験、レポート、課題、実習態度などを評価し、コマ数の割合で配点し、総合的に判断する。 心電図：試験 50%、実技試験 10%、レポート 20%、実習態度 10%、小テストと課題 10%
	レポート	20	
	小テスト	10	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項
①それぞれの機器を使用し、グループに分かれ実習を行う。②講義で学んだことは必ず復習してくること。 ③知識と技術そしてコミュニケーション術の習得を目指すこと。④検査をする側、検査を受ける側の互いの立場を体験することにより、手順以外の生理機能検査に必要とされる情報も理解すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	心電図検査①	心電図検査の実際（検査環境、心電計の準備、被検者の対応、電極装置、波形の記録）座学
	2	心電図検査②	心電図検査の実際（安静心電図）
	3	心電図検査③	心電図検査の実際（安静心電図）
	4	心電図検査④	波形の計測(安静心電図)
	5	心電図検査⑤	心電図のアーチファクト(意図的に起こして心電図検査)
	6	心電図検査⑥	心電図のアーチファクト(意図的に起こして心電図検査)
	7	心電図検査⑦	アーチファクトの判断と対策(まとめ)座学
	8	心電図検査⑧	心電図の電極の付け間違い
	9	心電図検査⑨	心電図の電極の付け間違い
	10	眼底検査①	原理と基礎 （山田）
	11	眼底検査②	実習 （山田）
	12	緊急時対応①	実習 （三上）
	13	緊急時対応②	実習 （三上）
	14	聴覚検査	原理と基礎 （岡﨑）
	15	平衡感覚検査	原理と基礎、実際の検査 （橘内）

授業科目	臨床生理検査学実習ＩA	担当教員 実務経験	橘内健一 有：■　　無：□	病院検査部生理業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	１年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	化学	担当教員	川村　隆志		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	原子、分子の基本から物質の状態、とくに溶液を中心に学び、溶液の濃度、pH、化学反応について理解し、さらには生体を構成する有機化合物とそれらの反応に関与する酵素についての基本を学ぶことを目的とする。				
到達目標	原子、分子や物質量の概念、溶液の濃度、pH、緩衝液などについて計算ができる。物質の反応および基本的有機化合物の構造、糖質、脂質等について説明できる。酵素の反応について説明ができる。実験のための基本的操作について説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「化学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 10%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	10	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ②毎回小テストを実施し、その解説から始まることとなるので毎回の授業を大切にすること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	物質の構造	原子、分子の基本、原子量、分子量、モルの概念
	2	物質の状態①	気体、液体、固体
	3	物質の状態②	溶液（濃度計算）
	4	物質の状態③	溶液、コロイド
	5	物質の変化①	化学反応の種類と分類
	6	物質の変化②	化学平衡、電離平衡、酸と塩基の定義
	7	物質の変化③	pH の計算
	8	物質の変化④	溶液の緩衝作用
	9	物質の変化⑤	化学反応と反応速度
	10	無機化合物	元素の分類、非金属、金属、配位化合物
	11	有機化合物①	有機化合物の構造
	12	有機化合物②	官能基
	13	有機化合物③	生体分子成分
	14	実習のための基礎知識	器具・薬品の取り扱い、溶液の調整
	15	化学のまとめ	まとめ

授業科目	化学	担当教員 実務経験	川村隆志 有：■　　無：□	検査センター生化学検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医療工学概論	担当教員	村林　俊		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	医療工学とは、医療領域に適応した工学技術であり、検査、診断、治療に用いる工学技術である。この講義では、その概要を提供する。その工学技術の基盤となる電気・電子素子の基礎を学ぶことを目的とする。				
到達目標	電気の基礎知識と計測機器に用いられている半導体素子、オペアンプ等の作動原理を理解することより、計測機器の技術基盤を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・配付資料				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 100%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	プリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 電気分野の内容が講義の中心となるが、高校時代に、物理や電気関係の学習が不十分であることを前提に講義を行う。しかし、講義内容を理解できない場合は、その旨、申し出てほしい。説明方法を変え、可能な限り、理解できるように努力する。そのため、理解が困難な場合は、躊躇せず、申し出ること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	医療における工学	検査、診断、治療における工学技術
	2	電気の基礎	電気とは、正電荷と負電荷、電圧、電流と電子の流れ
	3	電気の基礎　1）直流回路－1	直流回路と交流回路、抵抗とオームの法則
	4	電気の基礎　1）直流回路－2	電圧降下とキルヒホッフの法則
	5	電気の基礎　2）交流回路－1	交流を表す式、コイル、コンデンサー
	6	電気の基礎　2）交流回路－2	インピーダンスと位相、複素数を用いた計算
	7	電気の基礎　3）半導体	ダイオードとトランジスター
	8	電気の基礎　4）オペアンプ	反転増幅回路、非反転増幅回路、差動増幅回路、出力インピーダンスと入力インピーダンス

授業科目	医療工学概論	担当教員 実務経験	髙橋智哉 有：■　　無：□	病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床生理検査学実習ＩB	担当教員	江畑　京子		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	臨床生理学の機器の原理、操作方法、判読法を学ぶ。学生同士で検者と被検者になり、患者心理の理解および接遇を学ぶ。				
到達目標	心電図検査の準備、説明、測定と心電図波形の判読ができる。眼底検査、平衡機能検査、聴覚を理解し、測定、説明、評価ができる。緊急対応を理解する。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「生理機能検査学」　（医歯薬出版） ・スライド ・プリント ・心電計				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	50	実技テストや試験、レポート、課題、実習態度などを評価し、コマ数の割合で配点し、総合的に判断する。 心電図：試験 50%、実技試験 10%、レポート 20%、実習態度 10%、小テストと課題 10%
レポート	20	
小テスト	10	
提出物	0	
その他	20	

履修上の留意事項	①それぞれの機器を使用し、グループに分かれ実習を行う。②講義で学んだことは必ず復習してくること。 ③知識と技術そしてコミュニケーション術の習得を目指すこと。④検査をする側、検査を受ける側の互いの立場を体験することにより、手順以外の生理機能検査に必要とされる情報も理解すること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	心電図検査①	心電図検査の実際（検査環境、心電計の準備、被検者の対応、電極装置、波形の記録）座学
2	心電図検査②	心電図検査の実際（安静心電図）
3	心電図検査③	心電図検査の実際（安静心電図）
4	心電図検査④	波形の計測(安静心電図)
5	心電図検査⑤	心電図のアーチファクト(意図的に起こして心電図検査)
6	心電図検査⑥	心電図のアーチファクト(意図的に起こして心電図検査)
7	心電図検査⑦	アーチファクトの判断と対策(まとめ)座学
8	心電図検査⑧	心電図の電極の付け間違い
9	心電図検査⑨	心電図の電極の付け間違い
10	眼底検査①	原理と基礎 （山田）
11	眼底検査②	実習 （山田）
12	緊急時対応①	実習 （三上）
13	緊急時対応②	実習 （三上）
14	聴覚検査	原理と基礎 （岡﨑）
15	平衡感覚検査	原理と基礎、実際の検査 （橘内）

授業科目	臨床生理検査学実習ＩB	担当教員 実務経験	橘内健一 有：■　　無：□	病院検査部生理業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	１年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	情報科学	担当教員	木田　順士		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	情報科学の基礎と情報の獲得、処理、加工などを学ぶ。				
到達目標	情報科学の基礎を説明できる。ハードウェア、ソフトウェアについて説明できる。ネットワークについて説明できる。システムについて説明できる。情報セキュリティについて説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「情報科学」(医歯薬出版) ・プリント				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 100%の評価点とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。④提出物の期限を守ること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	情報科学の基礎①	情報理論の基礎、コンピュータの情報表現
2	情報科学の基礎②	論理演算、暗号
3	ハードウェア	コンピュータの基本構造と動作原理
4	ソフトウェア	オペレーションシステム、アプリケーションソフトウェア
5	ネットワーク①	コンピュータネットワーク
6	ネットワーク②	通信プロトコル、ネットワーク接続
7	システム	システム設計とシステム開発
8	情報セキュリティ	ネットワークのセキュリティ

授業科目	情報科学	担当教員 実務経験	木田順士 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	物理学	担当教員	鎌田　到		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	理科系の基礎学問領域として重要な物理学の基本概念を学ぶ。				
到達目標	医療・臨床検査分野に特化した物理現象を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「物理学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 70%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 20%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体 10%の評価点とする。
レポート	0	
小テスト	20	
提出物	0	
その他	10	

履修上の 留意事項	①教科書を理解するための物理の基本を学習する。 ②毎回の演習問題（ミニテスト）を自分で考え解くこと。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	単位・力のつりあい	MKS 単位系、力の種類、力のつりあい
2	力と運動①	速度・加速度、運動の法則、自由落下・放物運動
3	力と運動②	円運動、振動
4	エネルギーと仕事、弾性体の力学	位置エネルギー・運動エネルギー、仕事・仕事率、応力、弾性率
5	流体の力学	圧力、気体の法則、パスカルの原理、流体運動
6	熱	温度、比熱、熱伝導、熱力学の法則
7	音波と超音波、光	音の性質、超音波の性質、光の性質、レンズ
8	原子と放射線、直流回路①	放射線の種類と利用、オームの法則、抵抗の直列並列接続
9	直流回路②	ブリッジ回路、キルヒホッフの法則、電力、抵抗率
10	磁気	磁界の強さ（コイル、ソレノイド）、電磁力、電磁誘導、インダクタンス
11	静電気①	クーロンの法則、電界、電位
12	静電気②	コンデンサ、コンデンサの接続
13	交流回路①	交流の表し方、実効値、RLC 単独回路
14	交流回路②	ベクトルによる RLC 回路
15	交流回路③	記号法による RLC 回路

授業科目	物理学	担当教員 実務経験	髙橋智哉 有：■　　無：□	病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	公衆衛生学	担当教員	今谷　正則		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	公衆衛生学をとおして、地域社会の疾病と予防対策、身体的・精神的健康の増進、環境問題、保健・医療・福祉の制度などを学ぶ。				
到達目標	履修主題を理解し、各テーマ別に定めた問題点を解説できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「公衆衛生学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	90	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 90%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体 10%の評価点とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	10	

履修上の留意事項

①教科書、プリント及び板書を中心に講義形式の授業を行う。②問題提起を討論する形式も併せて行う。
③履修主題について、予習すること。④公衆衛生に関する社会問題などについても調べておくこと。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	公衆衛生学総論	公衆衛生学の意義、健康問題の変遷、公衆衛生活動
2	疫学	疾病の分類、疫学の調査方法,スクリーニング
3	感染症	感染の成立と要因、予防対策、主な感染症
4	母子保健	母子保健対策とその課題、少子化問題について
5	学校保健	学校保健管理と学校感染症
6	精神保健	精神保健の現状と対策、依存症問題
7	食品衛生と栄養	食品安全と食品衛生（食中毒）、我が国の栄養摂取状況
8	生活環境	環境の現状、上下水道、廃棄物
9	公害	公害の現状と課題（水質汚染、大気汚染、地球規模環境問題）
10	産業保険	働く環境と産業保健、職業病の予防
11	衛生統計	疾病統計と人口動態・静態統計
12	成人保健①	疾病・生活習慣病の予防と対策、健康日本２１
13	成人保健②	疾病・生活習慣病の現状と評価
14	社会保障と社会福祉	各種保険の仕組み、福祉問題
15	衛生行政、関係法規	衛生行政と医療制度（医療法など）等

授業科目	公衆衛生学	担当教員 実務経験	今谷正則 有：■　　無：□	保健所公衆衛生業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	検査機器総論	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	生体情報を分析、測定する検査機器に関する原理や構造などを学ぶ。				
到達目標	検査に必要な基本的な機器や装置に関する知識を説明もしくは操作ができる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「検査機器総論」（医歯薬出版） ・プリント等				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 100%の評価点とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 実際に実習などで使用する機器の目的、種類、原理、構造、使用上の留意点などを学ぶために必要な授業である。また、理科系の基礎知識が必要なため、特に理解できないことがあったら積極的に質問すること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	検査機器学総論	用手法と検査機器の特徴
2	共通機械器具の原理・構造①	化学容量器、天秤装置、遠心分離装置、分離分析装置の原理・構造
3	共通機械器具の原理・構造②	攪拌装置、恒温装置、保冷装置、滅菌装置、遺伝子検査機器の原理・構造
4	共通機械器具の原理・構造③	測光装置、顕微鏡装置、電気化学装置、純水製造装置の原理・構造
5	各専門機器①	血液、化学の検査機器
6	各専門機器②	病理、微生物の検査機器
7	各専門機器③	免疫血清、POCT の検査機器
8	各専門機器④	生理の検査機器

授業科目	検査機器総論	担当教員 実務経験	紙谷宜行 有：■　　無：□	病院検査部細菌検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	英語Ⅰ	担当教員	三澤　映治		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	病院やメディカル業界で実際に役立つ英語でのコミュニケーション能力を、さまざまな医学専門用語やフレーズを用いて学ぶ。				
到達目標	ことばのマナーとして、英語の敬意表現を用い、相手にとって快適な環境を提供することを述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・マナーとホスピタリティの英語Ⅰ（YUMI PRESS） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	60	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 60%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 20%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体 20%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業。 ②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	Unit　1	基本コミュニケーション
	2	Unit　2	あいさつ
	3	Unit　3	電話
	4	Unit　4	案内
	5	Unit　5	受付
	6	Unit　6	順番待ち
	7	Unit　7	紹介
	8	Unit　8	説明
	9	Unit　9	クレーム
	10	Unit　10	栄養指導
	11	Unit　11	生活指導
	12	Unit　12	再診
	13	Unit　13	別れ
	14	Unit　14	明るい未来
	15	Summary	Game

授業科目	英語Ⅰ	担当教員 実務経験	三澤映治 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医療安全管理学	担当教員	紙谷　宜行		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	チーム医療の観点から医療事故防止について学ぶ。ヒューマン・エラーの考え方、感染制御、インシデントの対応などについて学ぶ。				
到達目標	医療安全について理解を深め、患者への安全な対応を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「医療安全管理学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 70%の評価点とする。 ②小テストの成績を科目成績全体 20%の評価点とする。 ③提出物の成績を科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	10	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②リスクマネージメント、感染管理は職場では重要なポイント。十分に学習すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	患者と技師とのかかわり①	接遇、インフォームド・コンセント
	2	患者と技師とのかかわり②	チーム医療
	3	リスクマネージメント①	インシデント・アクシデント
	4	リスクマネージメント②	インシデント・アクシデント
	5	感染対策①	感染対策の意義
	6	感染対策②	標準予防策
	7	感染対策③	ワクチン
	8	感染対策④	実際の感染対策業務

授業科目	医療安全管理学	担当教員 実務経験	髙橋智哉 有：■　　無：□	病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	英語 II	担当教員	三澤　映治		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	臨床検査技師に必要な英文による資料や論文の読解力を高める。				
到達目標	英文による試薬・医療機器などのカタログや解説書および論文の読解ができる。				
テキスト・参考図書等	・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	60	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 60%の評価点とする。 ②小テストの結果を科目成績全体 20%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体 20%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業。 ②前講義の確認テストを毎週実施し、達成度を確認すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	Unit　1	助動詞の使い方
	2	Unit　2	前置詞の使い方
	3	Unit　3	後置修飾句を捉える
	4	Unit　4	形容詞節の理解
	5	Unit　5	主語を推定する
	6	Unit　6	いろいろな比較表現
	7	Unit　7	原因と結果の表現
	8	Unit　9	「it」の意味
	9	Unit　11	否定構文の確認
	10	Unit　12	無生物主語の訳し方
	11	Unit　13	省略、倒置、同格の使い方
	12	Unit　14	文のつなぎの語句
	13	Unit　8	仮定法の訳し方
	14	Unit　10	多様な「as」の訳し方
	15	まとめ	全体を通しての Q＆A

授業科目	英語 II	担当教員 実務経験	三澤映治 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床医学総論	担当教員	坂爪　恵子		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	現代医療における臨床検査の位置づけ・意義を学ぶ。				
到達目標	疾病の原因や病態・治療・経過について学習することにより、臨床検査の意義を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「臨床病態学/臨床検査医学総論」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	60	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 60%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 10%の評価点とする。 ③提出された課題の点数を科目成績全体 30%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	10	
	提出物	30	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	医学概論	病気の原因、症状、経過と転移
	2	循環器疾患	不整脈、先天性心疾患、虚血性心疾患など
	3	呼吸器疾患	肺疾患
	4	消化器疾患	炎症性疾患・消化性潰瘍など
	5	肝・胆・膵疾患	肝臓・胆嚢・胆道・膵疾患
	6	感染症①	領域別の感染症
	7	感染症②	病原体別の感染症
	8	血液・造血器疾患	貧血、白血病など
	9	内分泌疾患	下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎疾患
	10	腎・尿路・男性生殖器疾患	糸球体腎炎、ネフローゼ、腎不全、腎・尿路結石、尿路感染症
	11	女性生殖器疾患、神経・運動器疾患	子宮、卵巣疾患、 脳血管障害、感染症、てんかん、変性・脱髄疾患、筋、骨疾患
	12	アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全症	気管支喘息、SLE、免疫不全症候群など
	13	代謝栄養障害	糖尿病、高脂血症、痛風、先天性代謝異常
	14	感覚器疾患・中毒	眼、耳鼻の疾患、中毒
	15	染色体・遺伝子異常症、皮膚、乳腺の疾患	染色体・遺伝子異常、白癬、乳がんなど

授業科目	臨床医学総論	担当教員 実務経験	紙谷宜行 有：■　　無：□	病院検査部に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床検査学総論実習Ⅰ	担当教員	星　直樹		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	現在、臨床の現場では機械化が進んでおり、マニュアルで測定することはほとんどない。だが、臨床検査技師は検体を機械にかけるだけではない。検査結果が正しいのか判断するのが大切であり、本実習では、検量線や希釈系列など検査の基本を学ぶ。検査材料から虫卵を観察し、確実に鑑別する方法を学ぶ。				
到達目標	検量線や分光光度計を使用できる。正確性・精密性を評価できる。検査結果から疾患・病態を推測できる。論理的な文章を書くことができる。　　おもな人体寄生虫卵の鑑別することができ、その検出法を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「一般検査学」(医歯薬出版) ・臨床検査学講座「解剖学」(医歯薬出版) ・臨床検査学講座「医動物学」(医歯薬出版) ・臨床検査学講座「臨床病態学/臨床検査医学総論」(医歯薬出版) 参考図書：JAMT 技術教本シリーズ「一般検査技術教本」　　JAMT 技術教本シリーズ「髄液検査技術教本」				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 40%に評価点とする。 ②レポートの点数を科目成績全体 30%の評価点とする。 ③小テストの点数を科目成績全体 20%の評価点とする。 ④プリント提出などを平常点として科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	30	
	小テスト	10	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①基本的に班単位で実習を行う。②他人任せにせず自ら進んで行動すること。 ③実習内容の理解を深めるために、予習を欠かさないこと。④レポートの提出期日を守ること。 ⑤剽窃などせず自分で考え作成すること。⑥服装・身だしなみを整えること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	寄生虫卵観察①	ホルマリン固定標本観察（単一標本）（オリベラ）
	2	寄生虫卵観察①	ホルマリン固定標本観察（単一標本）（オリベラ）
	3	寄生虫卵観察①	ホルマリン固定標本観察（単一標本）（オリベラ）
	4	寄生虫卵観察①	ホルマリン固定標本観察（単一標本）（オリベラ）
	5	寄生虫卵観察①	ホルマリン固定標本観察（単一標本）（オリベラ）
	6	尿検査①	採尿法、取り扱い
	7	尿検査①	尿定性検査、一般性状
	8	尿検査②	尿定性検査、擬陽性、偽陰性
	9	尿検査③	尿沈査検査法の手順
	10	尿検査④	尿沈査　無染色
	11	尿検査⑤	尿沈査　無染色、SM 染色
	12	尿検査⑥	尿沈査　無染色、SM 染色
	13	尿検査⑦	尿沈査　スコッティブロディ染色、ズダンⅢ
	14	尿検査⑧	尿沈査　結晶等
	15	まとめ	まとめ

授業科目	臨床検査学総論実習Ⅰ	担当教員 実務経験	オリベラ恵 有：■　　無：□	病院検査部免疫業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	画像検査学Ⅰ	担当教員	早坂　宏之		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	診断に必要な主となる画像検査の基礎知識について学ぶ。特に臨床検査技師が扱う超音波検査を理解する。				
到達目標	超音波検査も含め、他の画像機器により総合的に疾患を診断することが説明できる。超音波検査における特徴的な超音波像を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「生理機能検査学」（医歯薬出版） ・必要に応じて資料を配付				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	①最高点を100点換算した得点を科目成績の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①プリントや板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②上級年度で行う実習を想定して授業を受けること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	画像検査に使用される超音波、X線・その他電磁波	周波数、波長、伝播速度など波動の性質等について
	2	レントゲン写真およびCT検査など	主にX線を使用した画像検査の概要
	3	超音波検査①	超音波検査の概要、音場、指向性、パルス波、分解能など
	4	超音波検査②	ドプラ法（PWドプラ法、連続波ドプラ、カラードプラ法）
	5	超音波検査③	発信機、探触子（プローブ）、受信機、表示部、走査方式など
	6	超音波検査④	アーチファクトについて（サイドローブ、多重反射、鏡面現象、レンズ効果、音響陰影、側方陰影、後方エコー増強など）
	7	超音波検査⑤	まとめ（超音波検査実施の実際など）
	8	MRIおよび熱画像検査	主に磁場およびその他の物理的・化学的原理を用いる画像検査の概要

授業科目	画像検査学Ⅰ	担当教員 実務経験	早坂宏之 有：■　　無：□	大学病院検査部生理検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	基礎微生物学	担当教員	北島　泉		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	感染症の原因となる微生物の分類・形態・機能などの特徴を学ぶ。微生物検査を行うために必要な基礎知識を学ぶ。微生物制御のための基礎知識を学ぶ。病原体の取り扱いとバイオセーフティについて学ぶ。				
到達目標	微生物（細菌、ウイルス、真菌）について特徴を説明できる。染色、培養、同定及び遺伝子検査について説明できる。滅菌及び消毒、化学療法やワクチンについて説明できる。法に基づく感染症や病原体の分類、感染防御について説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「臨床微生物学」（医歯薬出版） ・必要に応じてプリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 70%の評価点とする。 ②小テストの得点を科目成績全体 20%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項
①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②微生物（細菌、ウイルス、真菌）の基礎知識を学び、臨床微生物学での各疾病と病原微生物のつながりを理解する。 ③微生物検査におけるバイオハザードとバイオセーフティを理解することが微生物検査における危害の防止と精度管理に重要である。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	微生物とその分類	微生物の概念・分類
	2	細菌の形態と構造、代謝と発育	細菌の大きさ、形態、構造、代謝、増殖、菌数測定
	3	細菌の観察方法と染色法	観察方法、染色理論、染色法
	4	細菌の発育条件と培養	細菌の化学的組成、栄養素、栄養要求性培養の目的、培地
	5	細菌培養法	分離培養、純培養、継代培養、集落の観察、代表的な培養法
	6	遺伝・変異と遺伝子診断	遺伝と変異の概念、遺伝子、プラスミド、形質伝達、変異、組換え、遺伝子診断
	7	滅菌及び消毒	滅菌と消毒の概念、殺菌法、消毒薬、効力検定
	8	化学療法とワクチン①	化学療法の概念、薬剤感受性検査、抗菌薬の種類
	9	化学療法とワクチン②	化学療法の基本、副作用、ワクチン
	10	正常細菌叢とその変動	常在菌の概念、分布、生理的機能、環境微生物
	11	病原性と抵抗力	病原微生物、感染の概念、生体防御、病原性因子、感染症
	12	微生物とその分類①	種類と分類（真菌・抗酸菌）、主な感染症
	13	微生物とその分類②	種類と分類（ウイルス）、主な感染症
	14	バイオハザードとバイオセーフティ	バイオハザードの防止、対策、バイオセーフティの構築
	15	病院感染と新興感染症、細菌検査の精度管理	病院感染、新興再興感染症、感染症に関する法律、検査の精度

授業科目	基礎微生物学	担当教員 実務経験	北島泉 有：■　　無：□	検査センター微生物検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医療安全管理学演習 A	担当教員	星　直樹		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	検体採取の意義や方法を学ぶ。				
到達目標	医療安全について理解を深め、患者への安全な検体採取対応を行うことができる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「医療安全管理学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 ②プリント提出などを平常点として科目成績全体 20%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の 留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②リスクマネージメント、感染管理は職場では重要なポイント。十分に学習すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	検体採取①	採血の手順
	2	検体採取②	シミュレーターを用いての採血
	3	検体採取③	シミュレーターを用いての採血
	4	検体採取④	シミュレーターを用いての採血
	5	検体採取⑤	シミュレーターを用いての鼻腔・咽頭からの検体採取
	6	検体採取⑥	シミュレーターを用いての口腔からの検体採取
	7	検体採取⑦	シミュレーターを用いての皮膚からの検体採取
	8	検体採取⑧	シミュレーターを用いての肛門からの検体採取

授業科目	医療安全管理学演習 A	担当教員 実務経験	星直樹 有：■　　無：□	病院検査部一般検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	基礎血液学	担当教員	池上　淳子		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	血液細胞や凝固因子が生体の維持にどのように関わっているかを学ぶ。正常・異常血液細胞について学ぶ。				
到達目標	各種血液疾患との関連性を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「血液検査学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 ②小テストの成績を科目成績全体 20%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	血液の基礎と生理	血液検査の発展と意義、血液に関する発見の歴史、血液の成分と性状
	2	血液の機能	物質の運搬、ガス代謝、栄養素、老廃物、生体の調節、防御、止血
	3	血球の産生と崩壊	血球の分化と成熟、造血因子、造血器官
	4	赤血球の生理	産生と崩壊、形態と機能、生化学
	5	赤血球検査の異常	基準値、形態異常、多血、貧血
	6	白血球の生理①	産生と崩壊
	7	白血球の生理②	形態と機能：好中球、好酸球、好塩基球、リンパ球
	8	白血球検査の異常	基準値、形態異常、機能異常、増加、白血球減少症、リンパ球の異常
	9	造血臓器の疾患	白血病、骨髄増殖性疾患、骨髄異形成
	10	血小板の生理と止血機構	産生と崩壊、形態と機能、血管機能、血小板機能
	11	凝固線溶系①	血液凝固、繊維素溶解、分子マーカー
	12	凝固線溶系②	出血性素因、血栓症、抗血栓療法
	13	血小板の異常、凝固線溶因子の異常	血小板減少症、機能異常症、増多症、凝固因子欠損、線溶亢進
	14	血管異常による疾患、血液型に関する疾患	紫斑病、血液型不適合
	15	染色体の基礎と異常	構造と機能、分類と命名法、染色体地図、ヒトの染色体地図、先天性染色体異常症、腫瘍と染色体異常、出生前診断

授業科目	基礎血液学	担当教員 実務経験	伊勢 智子 有：■　　無：□	病院検査部血液業務に従事し当該科目の教育を行う、
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	基礎生化学	担当教員	福士　勝		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	細胞機能と生体を構成する基本的物質である、糖質、脂質、蛋白質、核酸、酵素について学ぶ。				
到達目標	生命の最小単位の細胞の細胞小器官のそれぞれの機能が説明できる。生体の基本的物質の構造が説明できる。生体の基本的物質の機能が説明できる。酵素の機能と反応性について説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「生化学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 10%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体 10%の評価点とする。
レポート	0	
小テスト	10	
提出物	0	
その他	10	

履修上の留意事項

①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。
②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。
③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	総論：生命現象と生化学	生体構成成分：細胞の構成と働き
2	糖質	糖の定義：分類と性質、糖の誘導体、多糖。糖脂質/糖タンパク質
3	脂質	脂質の定義：分類と性質、脂肪酸、中性脂肪、リン脂質、ステロイド
4	タンパク質①	アミノ酸の構造と性質
5	タンパク質②	タンパク質の分類、タンパク質の分離精製
6	ヌクレオチドと核酸	ヌクレオチド：構造と性質、核酸の構造
7	酵素①	酵素の一般的性質、分類と命名法
8	酵素②	酵素反応速度論、酵素反応の阻害と活性調節

授業科目	基礎生化学	担当教員 実務経験	福士勝 有：■　　無：□	検査センター生化学検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	心理学	担当教員	大野　史博		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	教養としての心理学の基礎について学ぶ。将来医療現場で遭遇すると思われるさまざまな状況について考察・研修するための思考法を学ぶ。				
到達目標	心理学の基礎的な理論を幅広く学び、それらが臨床的技法の基盤になっていることを説明できる。将来の対人援助職従事者として、その基盤となる自己理解や他者理解について学習内容を通じて説明できる。				
テキスト・参考図書等	・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 70%の評価点とする。 ②ワークシートの提出を科目成績全体 30%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	30	
	その他	0	

履修上の留意事項	①配付するプリントを中心とした授業を行う。 ②学んだ内容について、理解促進のため各自の日常生活やこれまでの経験と関連付けながら復習すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	心理学とは	オリエンテーション、ウォーミングアップ、心理学とはどういう学問か？
	2	ストレスとは	不調のサインに気づこう
	3	臨床心理学	うつや不安、発達障害の理解を深める
	4	性格の心理学	性格の理論を学び、自分の性格パターンを知ろう
	5	コミュニケーションの心理学	対人援助のスキルを身に着ける、動機付け面接
	6	感情の心理学	怒りや不安の感情について知ろう
	7	行動の心理学	学習理論や行動分析について学ぶ、認知行動療法
	8	思考の心理学	物事の捉え方や考え方について知る、ACT やマインドフルネス

授業科目	心理学	担当教員 実務経験	大野史博 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	遺伝子検査学Ⅰ	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	遺伝と遺伝子との関係を学ぶ。細胞の構造と機能を学ぶ。染色体の構造、遺伝子の構造を学ぶ。遺伝子と疾患との関係を学ぶ。				
到達目標	上記授業目的の内容を説明することができ、遺伝子検査の倫理についても述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「遺伝子・染色体検査学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 70%の評価点とする。 ②小テストの成績を科目成績全体 20%の評価点とする。 ③提出物の成績を科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	10	
	その他	0	

履修上の留意事項	①プリントや板書を中心に講義形式の授業を行う。②到達確認のためのプリントテストを行う。2 学年で引続き学ぶ遺伝子検査学や実習に向けての基礎である。この授業で遺伝子、染色体などについて使用される用語をしっかり理解すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	遺伝子の基礎①	細胞小器官の構造と機能を学ぶ。
	2	遺伝子の基礎②	細胞分裂（体細胞分裂、減数分裂）について学ぶ。
	3	DNA の基礎	DNA の構造について学ぶ。
	4	RNA の基礎	転写、翻訳について学ぶ。
	5	DNA の複製	DNA の半永久的複製、修復、校正について学ぶ。
	6	染色体と遺伝子の突然変異	DNA の突然変異の原因について学ぶ。
	7	遺伝病の原因と治療	遺伝子疾患と治療の基礎を学ぶ。
	8	まとめと小テスト	まとめと小テスト

授業科目	遺伝子検査学Ⅰ	担当教員 実務経験	髙橋智哉 有：■　　無：□	病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	輸血・移植検査学実習ＩA	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	輸血前検査の「意義」と「手技」を学ぶ。				
到達目標	安心で安全な輸血が実施できるように正しい輸血検査ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「免疫検査学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	①レポートの得点を科目成績全体 50%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 20%の評価点とする。 ③プリント提出を科目成績全体 30%の評価点とする。
	レポート	50	
	小テスト	20	
	提出物	30	
	その他	0	

履修上の 留意事項	①用意した輸血検査マニュアルを基に実習を行う。 ②結果から安全な輸血ができるかを正しく判断できるかがポイントである。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	輸血検査の基本①	輸血検査に使用する機器・器具・試薬について学ぶ。
	2	輸血検査の基本②	輸血検査に使用する機器・器具・試薬について学ぶ。
	3	凝集見方①	輸血検査の基本となる凝集の見方を学ぶ。
	4	凝集見方②	輸血検査の基本となる凝集の見方を学ぶ。
	5	凝集見方③	輸血検査の基本となる凝集の見方を学ぶ。
	6	凝集見方④	輸血検査の基本となる凝集の見方を学ぶ。
	7	ABO、Rh 血液型検査①	輸血検査で最も重要な ABO、Rh 血液型検査について学ぶ。
	8	ABO、Rh 血液型検査②	輸血検査で最も重要な ABO、Rh 血液型検査について学ぶ。
	9	ABO、Rh 血液型検査③	輸血検査で最も重要な ABO、Rh 血液型検査について学ぶ。
	10	ABO、Rh 血液型検査④	輸血検査で最も重要な ABO、Rh 血液型検査について学ぶ。
	11	不規則抗体スクリーニング検査①	不規則抗体スクリーニング検査について学ぶ。
	12	不規則抗体スクリーニング検査②	不規則抗体スクリーニング検査について学ぶ。
	13	不規則抗体スクリーニング検査③	不規則抗体スクリーニング検査について学ぶ。
	14	不規則抗体スクリーニング検査④	不規則抗体スクリーニング検査について学ぶ。
	15	総合実習	小テストも含めた総合実習

授業科目	輸血・移植検査学実習ＩA	担当教員 実務経験	髙橋智哉 有：■　　無：□	病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	遺伝子検査学実習Ⅰ	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	遺伝子解析に必要とされる機器・器具・試薬に関することを学ぶ。遺伝子検査に関するサンプルの収集・処理・保管などについて学ぶ。核酸の抽出について学ぶ。核酸増幅法の原理について学ぶ。電気泳動法について学ぶ。				
到達目標	特定の核酸の存在を証明する知識を述べることができ、また、その手技を実施できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「遺伝子・染色体検査学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	①レポートの得点を科目成績全体 50%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 20%の評価点とする。 ③プリント提出を科目成績全体 30%の評価点とする。
	レポート	50	
	小テスト	20	
	提出物	30	
	その他	0	

履修上の留意事項	①用意したプリント資料を基に実習を行う。②実習で使用、抽出する遺伝子は非常に微量であるのでコンタミネーションに注意する。 ③使用する機器・器具等は何時も清潔に保つこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	遺伝子検査の基礎①	遺伝子検査に使用する機器・器具・試薬について学ぶ。
	2	遺伝子検査の基礎②	遺伝子の取り扱いと保存について学ぶ。
	3	遺伝子検査の基礎③	遺伝子検査の標準化と精度管理について学ぶ。
	4	遺伝子検査の基礎④	遺伝子検査用試薬の準備
	5	遺伝子検査の基礎⑤	遺伝子検査用試薬の準備
	6	遺伝子検査の基礎⑥	遺伝子検査用試薬の準備
	7	遺伝子の抽出①	DNA の抽出法（フェノール・クロロフォルム法）について学ぶ。
	8	遺伝子の抽出②	DNA の抽出法（フェノール・クロロフォルム法）について学ぶ。
	9	遺伝子の抽出③	DNA の抽出法（フェノール・クロロフォルム法）について学ぶ。
	10	遺伝子の抽出④	DNA の抽出法（フェノール・クロロフォルム法）について学ぶ。
	11	遺伝子の抽出⑤	DNA の抽出法（スピンカラム法）について学ぶ。
	12	遺伝子の抽出⑥	DNA の抽出法（スピンカラム法）について学ぶ。
	13	遺伝子の抽出⑦	RNA の抽出法（AGPC 法）について学ぶ。
	14	遺伝子の抽出⑧	RNA の抽出法（AGPC 法）について学ぶ。
	15	まとめ	まとめ

授業科目	遺伝子検査学実習Ⅰ	担当教員 実務経験	髙橋智哉 有：■　　無：□	病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	社会学	担当教員	中島　克典		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	①医療が直面する様々な社会的課題について学び、臨床検査技師に求められる機能・役割を考えていく。 ②医療を取り巻く環境への考え方、医療従事者として取るべき行動について理解を深める。				
到達目標	①医療を取り巻く諸課題の問題点を把握・分析し医療従事者としての関わりについて説明できる。 ②他の医療従事者等とのコミュニケーションを円滑に進めることのできる手法を発揮できる。				
テキスト・ 参考図書等	テキストとして必要に応じて PDF 教材を配付 これからのヘルスリテラシー（医療情報管理学と併用）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	40	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 40%の評価点とする。 ②レポート（２題）の点数を科目成績全体 30%の評価点とする。 ③小テスト、提出物、その他（演習への参加姿勢）をそれぞれ科目成績全体 10%の評価点とする。 ※　レポート・提出物ともにレポート等作成の基本である事実の把握と分析、これに対する意見、考察を評価する。
	レポート	30	
	小テスト	10	
	提出物	10	
	その他	10	

履修上の留意事項
①パワーポイントを用いた講義形式の授業と講義資料（PDF）を classroom に配付し演習を行う。 ②参考資料を配付して社会的課題、問題点の把握のためレポート作成を行う。評価に大きな割合%を占めるので必ず提出すること。 ③小テストや学習資料とするアンケートを Classroom に適宜あげるので、必ず提出すること。学習姿勢の評価とする。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション,レポートの書き方	なぜ、社会を学ぶのか。 コミュニケーション技術、レポート作成技術
	2	医療の 2024 年問題とタスクシフトの影響,選択の技術	臨床検査技師に求められる機能とは よりよい選択のための技術
	3	選択・コミュニケーション技術の演習	グループ演習：選択・決定する具体的手法、グループ構成員とのコミュニケーションを学ぶ
	4	医療の質の管理　目的と評価	医療の質の管理、評価、可視化、医療行動経済学の視点
	5	社会保障制度とはなにか	社会保障制度の目的と機能、体系　その財源・財政
	6	社会保障体制・医療体制として何を選択するか	グループ演習：選択・決定する具体的手法、グループ構成員とのコミュニケーションを学ぶ
	7	医療保険制度と供給体制	保険とはなにか、保険制度、医療保険診療の概要と留意点
	8	現代日本の社会保障の課題と解決の方向性	グループ演習：グループ構成員との課題解決に向けての合意形成への取り組み方について学ぶ

授業科目	社会学	担当教員 実務経験	中島克典 有：□　　無：■	病院医事業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床検査学総論Ⅰ	担当教員	星　直樹		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	臨床検査技師の役割や使命ついて学ぶ。尿検査の重要性と意義を学ぶ。				
到達目標	尿検体の取り扱い、保存方法を説明できる。尿検体の性状や基本的な検査項目を述べることができる。検査結果と疾患の関係性について説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「一般検査学」（医歯薬出版）　・臨床検査学講座「解剖学」（医歯薬出版） ・臨床検査学講座「生理学」（医歯薬出版）　・臨床検査学講座「臨床病態学/臨床検査医学総論」（医歯薬出版） 参考図書：JAMT 技術教本シリーズ「一般検査技術教本」（じほう）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 70%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 10%の評価点とする。 ③提出された課題の点数を科目成績全体 20%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	10	
	提出物	20	
	その他	0	

履修上の留意事項	①前講義で学んだことを確認する小テストを行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。④検査値のみ暗記するのではなく、その背景も理解すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	ガイダンス、尿化学検査①	尿の採取と尿試験紙法
	2	ガイダンス、尿化学検査①	尿の採取と尿試験紙法
	3	尿化学検査②	尿蛋白
	4	尿化学検査③	糖・ケトン体・ビリルビン
	5	尿化学検査④	黄疸の種類
	6	尿化学検査⑤	血尿・Hb・Mb 尿
	7	尿化学検査⑥	血尿の種類
	8	尿化学検査⑦	尿路感染症

授業科目	臨床検査学総論Ⅰ	担当教員 実務経験	星直樹 有：■　　無：□	病院検査部一般検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	輸血・移植検査学実習ＩB	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	輸血前検査の「意義」と「手技」を学ぶ。				
到達目標	安心で安全な輸血が実施できるように正しい輸血検査ができる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「免疫検査学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	①レポートの得点を科目成績全体 50%の評価点とする。 ②小テストの点数を科目成績全体 20%の評価点とする。 ③プリント提出を科目成績全体 30%の評価点とする。
	レポート	50	
	小テスト	20	
	提出物	30	
	その他	0	

履修上の留意事項	
	①用意した輸血検査マニュアルを基に実習を行う。 ②結果から安全な輸血ができるかを正しく判断できるかがポイントである。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	輸血検査の基本①	輸血検査に使用する機器・器具・試薬について学ぶ。
	2	輸血検査の基本②	輸血検査に使用する機器・器具・試薬について学ぶ。
	3	凝集見方①	輸血検査の基本となる凝集の見方を学ぶ。
	4	凝集見方②	輸血検査の基本となる凝集の見方を学ぶ。
	5	凝集見方③	輸血検査の基本となる凝集の見方を学ぶ。
	6	凝集見方④	輸血検査の基本となる凝集の見方を学ぶ。
	7	ABO、Rh 血液型検査①	輸血検査で最も重要な ABO、Rh 血液型検査について学ぶ。
	8	ABO、Rh 血液型検査②	輸血検査で最も重要な ABO、Rh 血液型検査について学ぶ。
	9	ABO、Rh 血液型検査③	輸血検査で最も重要な ABO、Rh 血液型検査について学ぶ。
	10	ABO、Rh 血液型検査④	輸血検査で最も重要な ABO、Rh 血液型検査について学ぶ。
	11	不規則抗体スクリーニング検査①	不規則抗体スクリーニング検査について学ぶ。
	12	不規則抗体スクリーニング検査②	不規則抗体スクリーニング検査について学ぶ。
	13	不規則抗体スクリーニング検査③	不規則抗体スクリーニング検査について学ぶ。
	14	不規則抗体スクリーニング検査④	不規則抗体スクリーニング検査について学ぶ。
	15	総合実習	小テストも含めた総合実習

授業科目	輸血・移植検査学実習ＩＢ	担当教員 実務経験	髙橋智哉 有：■　　無：□	病院検査部輸血免疫検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	関係法規	担当教員	遠藤　輝夫		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	「医事法規」・「臨床検査技師等に関する法律」などの法の解釈について学ぶ。				
到達目標	臨床検査技師の業務範囲を説明できる。各種医事法規の存在理由を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「関係法規」（医歯薬出版） ・プリント ・演習問題				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 ②プリント提出などを平常点として科目成績全体 20%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	①教科書やプリントを中心に、演習問題を交えた講義形式の授業を行う。 ②予習・復習を行うこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	法律の種類と医事法規概説	（第 1 章）法の概念（第 2 章）臨床検査技師と法律
	2	臨床検査技師等に関する法律①	（第 3 章）臨床検査技師等に関する法律の全体像
	3	臨床検査技師等に関する法律②	（第 3 章）臨床検査技師の業務内容、新しい業務
	4	臨床検査技師等に関する法律③	（第 3 章）衛生検査所、検査用放射性同位元素、改正医療法
	5	医事法規、薬事法規	（第 4 章）医事法規（医療法、保健医療関係者）（第 5 章）薬事法規
	6	保健衛生法規、予防衛生法規	（第 6 章）保健衛生法規（第 7 章）予防衛生法規
	7	環境衛生法規、労働衛生法規	（第 8 章）環境衛生法規（第 9 章）労働衛生法規
	8	社会保障・福祉関連法規	（第 1 0 章）社会保障・福祉関連法規

授業科目	関係法規	担当教員 実務経験	遠藤輝夫 有：■　　無：□	病院検査部主任業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	国語表現法	担当教員	横山　昌明		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	学生・社会人として必要な「国語力」 を身に付け、適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝える力を高めるとともに、思考力や判断力、想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を身につける。				
到達目標	①漢字や語彙の学習を習得する。 ②要約の方法を理解し、それを応用しながら、レポートや小論文の実践的な書き方ができる。 ③レポートや小論文作成の手順と方法が使用できる。				
テキスト・参考図書等	・キャリアアップ国語表現法 24 訂版(嵯峨野書院)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 50%の評価点とする ②レポート・論文 30%を科目成績全体 30%の評価点とする。 ③プリント提出(レポート・論文以外)などを科目成績全体 10%の評価点とする。 ④その他(取組姿勢など)を平常点として科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	30	
	小テスト	0	
	提出物	10	
	その他	10	

履修上の留意事項
①授業は、講義を中心に演習・ペアワークなども取り入れた形で行う。また、テキストに加えて補足プリントを適宜用いて進める。場合によってはプリントの提出を求める。 ②授業や課題には積極的に取り組み、主体的・能動的に学ぶこと。授業に対する関心、意欲態度は重要視する。私語は厳に慎むこと。 ③レポート・論文などの課題は必ず仕上げて提出すること。なお、評価に値しない内容のものは再提出させる。剽窃(コピペを含む)は絶対にしないこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	ガイダンス 「コミュニケーションと国語表現との関係」(総論)	◇授業の進め方・評価についての説明　◇学生・社会人に必要な「国語表現」とは◇論理的に読み・考え・表現する必要性
	2	文字表現の基礎①	◇漢字の習得方法◇熟語の構造◇仮名遣いや送り仮名◇四字熟語◇音訓と熟語
	3	文章表現の基礎②	◇文の仕組と文章構成◇文章の要約と理解◇原稿用紙の使い方
	4	文章表現の基礎③	◇表記の仕方◇語句の用法と文章の区切り方
	5	文章作成の基礎	◇文章の「型」の理解◇文章の構成方法◇「構成ノート」作成
	6	文章作成の方法と実践	◇要約の方法◇課題分から問いを見つける◇課題文型レポートの実際◇データー型レポートの実際
	7	レポート・論文の作法	◇題名の付け方◇定義の仕方◇引用の仕方◇効果的な段落の方法◇事実と意見の区別◇わかりやすい文章を書くために
	8	まとめ・国語表現の応用と活用	◇就職面接の形式、面接の流れ、話し方、面接の作戦

授業科目	国語表現法	担当教員 実務経験	横山昌明 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	解剖学	担当教員	藤田　昌宏		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	46 時間
授業目的	人体の構造と機能を学ぶ。人体を構成する各部位の器官・組織構造を系統別に学ぶ。				
到達目標	人体の器官・組織構造の相互関係を説明できる。解剖学用語を部位と役割と共に説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「解剖学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 ②レポートの得点を科目成績全体 10%の評価点とする。 ③小テストの得点を科目成績全体 10%の評価点とする。
	レポート	10	
	小テスト	10	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②人体の基本的な構造を知るための最も基本的な学問として学ぶ。 ③予習・復習を心がけること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	人体の基本的構造	解剖学とは
	2	細胞の構造と組織の種類	細胞、組織の種類
	3	発生の概要	ヒトの発生
	4	骨格系①	骨格の総論と各論
	5	骨格系②	骨格の各論
	6	筋系①	筋の総論と各論
	7	筋系②	筋の各論
	8	循環器系①	動脈系
	9	循環器系②	静脈系
	10	循環器系③	リンパ系
	11	呼吸器系	呼吸器の各論
	12	消化器系①	消化器の総論と各論
	13	消化器系②	消化器の各論
	14	消化器系③	消化器の各論
	15	内分泌系①	内分泌器の各論
	16	内分泌系②	内分泌器の各論
	17	生殖器系	男性・女性生殖器
	18	泌尿器系①	腎臓
	19	泌尿器系②	その他の泌尿器系
	20	神経系①	中枢神経系
	21	神経系②	末梢神経系
	22	感覚器系①	感覚器の各論
	23	感覚器系②	感覚器の各論

授業科目	解剖学	担当教員 実務経験	坂爪恵子 有：■　　無：□	総合病院、検査センターにて病理検査業務に従事し、 当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	血液検査学	担当教員	佐藤　和昭		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	血液検査を項目別に測定方法・目的・意義・基準範囲などについて学ぶ。				
到達目標	血液検査の測定原理と特性を説明できる。血液検査の結果と臨床症状との関連性を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・臨床検査学講座「血液検査学」（医歯薬出版） ・プリント				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 ②小テストの得点を科目成績全体 10%の評価点とする。 ③プリント提出などを平常点として科目成績全体 10%の評価点とする。
レポート	0	
小テスト	10	
提出物	0	
その他	10	

履修上の留意事項：①教科書を中心にプリント、板書、プロジェクターによる講義形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。
③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	血球に関する検査①	血球数の算定（赤血球、白血球、好酸球、血小板）
2	血球に関する検査②	自動血球計数、網赤血球数、赤沈
3	血球に関する検査③	Hb、Ht、赤血球指数、溶血検査
4	形態に関する検査①	塗抹標本作製、普通染色、特殊染色
5	形態に関する検査②	特殊染色、末梢血液像観察（赤血球、血小板）
6	形態に関する検査③	末梢血液像観察（白血球、自動分類）
7	形態に関する検査④	骨髄像検査、細胞表面マーカー検査
8	血小板、凝固・線溶検査①	血小板機能検査
9	血小板、凝固・線溶検査②	凝固検査（PT、APTT、Fib ほか）
10	血小板、凝固・線溶検査③	複合凝固因子、凝固因子、線溶検査
11	血小板、凝固・線溶検査④	凝固・線溶阻止因子、凝固・線溶の分子マーカー
12	血液検査結果の評価①	赤血球系疾患
13	血液検査結果の評価②	白血球系疾患
14	血液検査結果の評価③	造血臓器の疾患
15	血液検査結果の評価④	骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫、血小板・凝固・線溶因子の異常

授業科目	血液検査学	担当教員 実務経験	佐藤和昭 有：■　　無：□	大学病院検査部血液検査業務を経て、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		